化学会発

第 15 回 CSJ 化学フェスタ 2025 開催報告
—化学と交流が描く未来への共創—

CSJ 化学フェスタ実行委員会

はじめに

第 15 回 CSJ 化学フェスタ 2025 は昨年 10 月 22 日(水)～24 日(金)の 3 日間，東京・江戸川区のタワーホール船堀において現地開催しました。

日本化学会秋季事業としてスタートした第 1 回（2011 年）からの一貫した趣旨である「産学官の交流深耕」および「化学の社会への発信」を掲げ，節目の年にふさわしく，すべての企画を通じて活発な討論と交流が展開されました。参加者数は 2690 名に達し，学生ポスター発表は 1031 件を数えました。主な内容は，テーマ企画，公開企画，コラボレーション企画，産学官 R&D 紹介企画，学生ポスター発表および交流会であり，企画の総数は 33 となりました。ポスター会場や講演会場では，化学を軸とした新たな出会いと共創の議論が生まれ，対面開催ならではの熱気に包まれました。特に今回は，公開企画にノーベル化学賞をご受賞された京都大学・特別教授の北川進先生が会場に直接お越し下さり，講演いただけました。

ノーベル賞受賞記念講演を行う北川進京都大学特別教授

講演後，北川進先生を囲む聴講者

テーマ企画

テーマ企画は，大学，国立研究開発法人および企業からの 84 名の実行委員が企画から運営までを担当する主要企画で，環境・エネルギー・資源，新素材，バイオ・食品・健康医療，新規テーマ，チュートリアル，国際企画の 6 分野で計 25 件が実施されました。各分野では，社会課題の解決と新技術の創出を目指した講演が行われました。学生，異分野の方々など多様な参加者の皆様に興味を持って参加していただけるよう，化学フェスタならではのわかりやすい企画タイトルが特長です。

環境・エネルギー・資源ではカーボンニュートラルに直結するテーマが注目を集めました。リチウムイオン電池の材料開発から教育まで多角的な視点の講演，プラスチックリサイクルから都市鉱山まで資源循環技術の最前線，燃料アンモニアの最新開発動向などが議論されました。また，スマートセルやバイオマス原料をフル活用する未来のものづくりといった生物資源を活かしたものづくりの新潮流が紹介されました。新素材では，フッ素材料の特性解明，最新の荷電π電子系材料，エネルギーハーベスティング，スマートラボの最新動向，宇宙環境用高分子材料など，基礎から応用まで幅広い研究が紹介され，演者間の質疑も活発でした。また，分散技術について，界面計測やレオロジー解析をはじめ複合的な視点から進展が示されました。バイオ・食品・健康医療では，五感の化学，脳神経科学，ファーマシューティカルケミストリーについて分野横断的な議論が展開され，化学と脳科学の融合がもたらす新しい可能性が感じられるセッションとなりました。新規テーマでは，ナノインプリント，地球にやさしいポリマー，創薬と医療を支える新モダリティなど先端産業と直結する話題が多く，参加者の関心を集めました。

チュートリアル企画では，プレゼンテーションのノウハウと博士取得後のキャリアに着目した講演が行われ，学生の注目を集めました。講演から質疑まで

すべて英語で行う国際企画では，日本で活躍している外国籍の産学官の研究者を中心に，キャリア形成や研究環境の違いの紹介，異文化環境で化学を楽しむ秘訣などのアドバイスがあり，有意義な議論と交流が行われました。

公開企画とコラボレーション企画

北川進先生のご講演題目は「MOF 化学の開拓と展開」であり，金属有機構造体（MOF）の開発を振り返り，国境を越えてどこにでもある気体を活用する「気体の時代」の到来を強調されました。さらに，MOF の開発を通じて「無用の用」の精神で挑戦し続けることの重要性を若手研究者に熱意をもって語り掛けられました。

また，一般市民も対象にした公開講座では「匂い？臭い？～化学とニオイ～」と題し，生活に身近なテーマを専門の先生方から専門家でない方々にもわかりやすく工夫してお話ししていただき，一般参加の方が積極的に質問されるなど熱心な意見交換が行われました。

コラボレーション企画は，企業，大学，研究機関・協会などが，自由なテーマで開催できる情報発信の場となっています。設定されたテーマを通じて産学官の人的交流，多様な技術の出会い・融合といった化学のさらなる発展の場として活用いただく企画です。産総研特別企画：

日英シンポジウムで講演する英国側演者

サーキュラーエコノミーの社会実装に向けた資源循環技術，文科省科研費学術変革領域研究（A）「天然物が織り成す化合物潜在空間が拓く生物活性分子デザイン」特別企画：情報科学・ケミカルバイオロジー・有機合成化学の融合による生物活性分子創出の試み，地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）で推進する、大学のビジョン達成に向けた取り組み，第 12 回　日英シンポジウム「Aquatic Chemical Science and Materials」の計 4 件の特別企画を実施しました。研究と社会実装，国際連携を結ぶ内容が注目を集め，国際的な交流の場として一層の発展が感じられました。

産学官 R&D 紹介企画

産学官 R&D 紹介企画では，R&D 展示ブースとランチタイムセッション（講演）の 2 形態で実施しました。R&D 展示ブースには 32 機関から出展があり，製品展示や技術紹介を通じて学生や一般参加者との双方向の交流が活発に行われました。ランチタイムセッションには 9 機関が出展し，若手研究者による研究紹介やキャリアパス，仕事のやりがい等について紹介され，参加学生からも好評でした。

学生ポスター発表

学生ポスター発表は，3 日間で合計 9 セッションが実施され，全国 98 校の大学，大学院大学，高等専門学校から合計 1031 件の発表がありました。今回もポスター内容のグラフィカルアブストラクトをプログラムのホームページに期間限定で掲載して一覧性を付与しました。ポスターセッションは R&D 展示ブースと同じ会場で実施され，多くの参加者が集まって非常に熱心な議論がなされました。

化学フェスタのポスターセッションの特長として，複数の審査員によって多面的な審査が行われることがあげられます。大学教員だけでなく，産業界の方，公的研究機関に所属する研究者などの多様な専門分野を持つ方々が同時に審査することで，学生が普段行う学術的な観点でのディスカッションだけではなく産業応用の目線での技術の有用性などを議論することができ，参加者には良い機会となりました。

ポスター賞の選考は，審査員からの評点に基づき厳正に行い，別掲のとおり「最優秀ポスター発表賞（CSJ 化学フェス

タ賞）」10件，「優秀ポスター発表賞」188件を選出しました。次ページ以降には，第15回の最優秀ポスター発表賞（CSJ化学フェスタ賞）受賞者のコメントを掲載しておりますので，併せてご覧下さい。なお本審査は，お忙しい中，多くの審査員の皆様（496名）にご協力いただき支えられております。この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

博士課程学生オーラルセッション

今回で7回目となる博士後期課程学生対象のオーラルセッションを実施しました。近年は申込締切前に発表枠に達する状況が続いており，今では化学フェスタの定番企画となっています。博士学生が広い視野を持って自身の研究を語るこのセッションでは，普段の学会発表とは異なり，産業界を含めた異分野の参加者へのアピールが強く意識された発表が多く見られました。どの発表もわかりやすく高いレベルの内容でした。質疑応答も活発で，発表後も学生同士で個別に議論が行われる場面も見られ，お互い刺激し合う場になったのではないかと感じられました。厳正な審査により，30件の講演の中から優秀な講演に対して「CSJ化学フェスタ博士オーラル賞」6件が選出されました。

交流会のクイズ大会で正解した学生の皆様

交流会

化学の日（10月23日）の夕方に交流会を開催しました。学生ポスターの発表者を無料招待することが最大の特長で，数ある学会でも最大規模の企画です。今回は約400名が参加し，学生と産学官関係者が垣根なく交流できる貴重な場となっています。クイズ大会では化学に関する問題が出題され，参画企業からの景品を勝ち取るなど，終始和やかかつ盛り上がりのある雰囲気でした。

おわりに

今回も3日間を通じて大きなトラブルもなく円滑に進行し，全企画で活気ある発表と交流が繰り広げられました。講演会場やポスター会場では，産学官・世代・分野を超えた意見交換が行われ，研究の深化とともに新しいネットワークが芽生えました。特に学生や若手研究者が積極的に討論に参加する姿が目立ち，次世代の化学を担う人材育成の場としての意義が改めて実感されました。

化学フェスタは，世代や所属を超えて化学を軸に交流できる貴重な場として，ますます重要な役割を果たしています。参加者の皆様や関係者の協力を得て，未来の共創のきっかけとなる場を作るべく，実行委員会一同，今後も一層の発展に努めてまいります。

次回第16回CSJ化学フェスタは，2026年10月20日(火)～22日(木）の3日間に開催予定です。東京都江戸川区タワーホール船堀で，再び多くの皆様と出会えることを楽しみにいたしております。

〔実行委員長　加藤隆史（信州大学/岡山大学/東京大学名誉），山田泰司（花王）〕

© 2026 The Chemical Society of Japan